

(社)日本原子力学会 標準委員会 原子燃料サイクル専門部会
第15回 LLW埋設施設検査方法分科会議事録

1. 日時：2009年11月13日(金) 13時30分～17時30分
2. 場所：日本原子力技術協会 7階 「A・B会議室」
3. 出席者（順不同，敬称略）
 - (出席委員) 川上（主査），新堀（副主査），吉原（幹事），河西，小山，山本，河村，京谷，久田(15:40～退席)，宮本 15:00～退席)，藤谷，牧野（後藤代理），中越（雨宮代理），枝松（平川代理），山本（上田代理）， (15名)
 - (欠席委員) 金子，兵藤，塩見，吉森（4名）
 - (常時参加者) 池田，小野，金子，関口，中村，田中（明），田中（靖），中瀬，庭瀬，山田，新保，大内（12名）
(枝松，山本常時参加者は委員代理出席)
 - (欠席常時参加者) 廣永，安田，大音，増田（4名）
 - (事務局) 谷井
4. 配付資料
 - F15SC15-1 第14回 LLW 埋設施設検査方法分科会議事録(案)
 - F15SC15-2-1 原子燃料サイクル専門部会の活動状況
 - F15SC15-2-2 標準委員会の活動状況
 - F15SC15-3-1 余裕深度処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版
 - F15SC15-3-2 余裕深度処分施設の施設検査方法(案) 完本版
 - F15SC15-4-1 ピット処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版
 - F15SC15-4-2 ピット処分施設の施設検査方法(案) 完本版
 - F15SC15-5-1 トレンチ処分施設の施設検査方法(案) 修正前後対比版
 - F15SC15-5-2 トレンチ処分施設の施設検査方法(案) 完本版
 - F15SC15-6 第41回原子燃料サイクル専門部会（H21.12.02）への本報告説明資料
5. 議事
 - (1) 出席者及び資料確認
 - 事務局より，委員 19 名中 15 名の出席があり，決議に必要な委員数（13 名以上）を満足し，本分科会は成立している旨の報告があった。
 - (2) 前回議事録の確認
 - 幹事より F15SC15-1 により，前回議事録（案）の説明があり，承認された。
 - (3) 原子力学会の活動について
 - 事務局より，F15SC15-2-1及びF15SC15-2-2に沿って，原子燃料サイクル専

門部会及び標準委員会の活動状況について報告があった。

(4) 余裕深度処分施設検査方法標準(案)の改訂について

F15SC15-3-1 及び F15SC15-3-2 に基づき、余裕深度処分施設の施設検査方法標準(案)簡条 1～4 について山田常時参加者から説明があった。続いて簡条 5 について小野常時参加者から説明があった。主な議論は以下のとおりである。

- ・“まえがき”の英文について、見直した方がよい。
- ・英文のタイトルで、“Method”又は“Standard”が必要か。
⇒他の標準の英文タイトルも参考にして見直すこととする。
- ・附属書 B と附属書 C のタイトルについて、誤解を招くおそれがあるので、見直した方がよい。
⇒拝承。附属書 B のタイトルを“長期安全確保のための人工バリアの技術的要件及び検査項目の考え方”と改めるなどの修正を行う。
- ・附属書 C の C.2 の見出しを“機能ごと”としているが、“基本安全機能ごと”として、正確に記載した方がよい。
⇒拝承。
- ・表 C.1 で、“閉じ込め”に対応する設備として、“コンクリートピット”としているが、誤解を招くおそれがあるので表を工夫した方がよい。移行抑制の低透水性に対応する“空洞内充てん材”についても同様で、技術的要件に透水性の記載がないので、誤解を招くおそれがある。
⇒拝承。誤解を招かない工夫を検討する。
- ・“定置前のコンクリートピット内に地下水などがたまっていないこと”は、コンクリートピットに求める機能ではないのではないか。
⇒表 C.1 に注記などを加えて、修正する。
- ・解説の適用範囲の第 3 段落目で、“事業者は・・・”としているが、できるだけ、“事業者”という言葉を使わない方がよい。
⇒拝承。表現については、検討する。
- ・核種収着性の解説の部分で、“固相と液層の・・・”の部分は、削除するかそれに対する式などを記載して、解りやすくした方がよい。
⇒拝承。検討し、修正する。
- ・“化学的変質に対する抵抗性”の解説の部分で、主旨がわかりにくくので、言葉を加えるなどして、表現を改めた方がよい。
⇒拝承。検討し、修正する。
- ・余裕深度処分施設の建設開始から埋戻しまでとしているが、地上施設も含まれるのか。
⇒地上施設として、受入施設も対象にしている。
- ・解説のはじめの説明文は、“規定の一部ではなく・・・”を“標準の一部ではなく・・・”とする。附属書については、このままの記載でよい。
⇒拝承。“標準の一部ではなく・・・”に修正する。

(5) ピット処分施設検査方法標準(案)の改訂について

F15SC15-4-1 及び F15SC15-4-2 に基づき、ピット処分施設の施設検査方法

標準(案) 簡条1～4について山田常時参加者から説明があった。続いて簡条5について山本常時参加者から説明があった。主な議論は以下のとおりである。

- ・解説4.3の文章中，閉じ込め，とあるが，機能を入れる方が分かりやすい。
- ・固有名詞と解釈してもらうために，カギカッコ。ダブルコーテーションなどをつけるのもよい。
- ・埋設後管理標準では，機能を入れていない。
⇒解説4.2で，基本安全機能であることを説明しているのので，後も同じであるという解釈ができる。よって，このままとしたい。
- ・解説表4には，廃棄体の記載があり，廃棄体の位置付けが明確なので，すっきりする。附属書Bに，この表を活かすことはできないか。
⇒拝承。廃棄体の位置づけが分かるように，附属書Bを見直し，修正する。
- ・解説（簡条1～4）の19ページ，“覆土によって陥没を防止”は，“覆土の陥没を防止”とする方がよい。
⇒拝承。修正する。
- ・同ページの“覆土の材料条件の安定性”は“覆土材料の安定性”とする方がよい。
⇒埋設後管理でも同じ表現となっているため，埋設後管理標準側と協議して，修正を検討する。
- ・同ページの“覆土の施工完了時の締固め達成度”という表現は陥没防止と安定性を混同している。“覆土施工完了時の安定性”とする方がよい。
⇒拝承。修正する。

(6) トレンチ処分施設検査方法標準(案)の改訂について

F15SC15-5-1 及び F15SC15-5-2 に基づき，トレンチ処分施設の施設検査方法標準(案)簡条1～4について山田常時参加者から説明があった。続いて簡条5について田中（靖）常時参加者から説明があった。主な議論は以下のとおりである。

- ・附属書Cの図C.1について，鉛直方向及び水平方向の縮尺が異なっているようで，図が不自然である。本図はあくまでも模式図であるため，これらの寸法を示す表記は削除してはどうか。
⇒拝承。修正する。
- ・附属書Cの図C.1のタイトルが“～雨水浸入抑制対策”となっているが，本附属書は具体的に雨水浸入抑制対策を示すものではなく，あくまでもJPDRの事例示すことが目的であるため，“～雨水浸入抑制対策の例”のように修正したほうが良い。
⇒拝承。指摘のように例を付ける修正を行う。
- ・附属書Cでは“JPDR埋設申請書に記載されている”という旨を強調しているが，申請書記載であることをわざわざ強調する必要はなく，JPDRの事例をそのまま示せばよいのではないか。
⇒拝承。修正する。
- ・附属書Eは，タイトルを“覆土の乾燥密度の検査方法例”としているが，事

例としては現場密度試験しか載せていない。試験室で測定する方法に関しては記載しないのか。

⇒本附属書は現場密度試験の事例を示すのが目的であるため、誤解されないようにタイトルを“現場密度試験の事例”等に修正する。

(7) 原子燃料サイクル専門部会への本報告について

F15SC15-6 に基づき、原子燃料サイクル専門部会への本報告について吉原幹事より説明があった。主な議論は以下のとおりである。

・本報告説明資料のタイトルは、余裕深度処分、ピット処分及びトレンチ処分を並べて表示するのがよい。

⇒拝承。

・本報告説明資料のタイトルから、(仮称) を取ること。

⇒拝承。

・表中の“加藤委員”は“加藤幹事”に修正すること。

⇒拝承。

・“標準の概要”の文章“そのため、余裕深度処分施設の施工中及び施工完了後には、・・・”を“この機能を確保するため、設備の施工段階に応じて・・・”と修正する方がよい。

⇒拝承。文案を考えて修正する。

・目標スケジュールについて、標準の制定予定時期を予定表に入れる方がよい。

⇒拝承。

・“今後の課題”というタイトルは、“留意点”“予定”など柔らかな表現にする方がよい。

⇒拝承。修正する。

・右上の“S15SC”は“F15SC”である。

⇒ 拝承。修正する。

・第 39 回専門部会コメント対応表の記述は最新の状況に変更すべきである。

⇒拝承。修正する。

・最後に、川上主査から、本日のコメントを踏まえ、原子燃料サイクル専門部会へ本報告する旨の発言があった。

(8) その他

・本日のコメントに対する修正結果に関しては主査、副主査に一任とする。

・次回分科会は、原子燃料サイクル専門部会への本報告、その後の書面投票の結果を踏まえ、必要に応じて開催する。

以 上